

■ 実習

## 実習「HP病院倫理委員会」

グラバア 俊子

(南山大学 人文学部心理人間学科)

杉山 郁子

(グループファシリテーターの会 Seeds)

園木 紀子

(グループファシリテーターの会 Seeds)

古田 典子

(グループファシリテーターの会 Seeds)

須山 亜由美

(南山大学大学院 教育ファシリテーション専攻)

### ■実習成立の背景

この実習は価値観に焦点をあてたコンセンサス実習として考え出されたものです。このコンセンサス実習は自分自身の価値観や、他者との価値観の違いに気づいたり、一人ひとりの異なる考えを話し合いを通して理解し合う過程を学ぶものです。アンケートの結果や専門家による回答などの正解のあるものと、物語の登場人物の好感度や自分の大切なものを問われるような正解のないものと、タイプが2種類あります。研修の参加者や状況により、実施者が判断して使う必要があります。この実習は、後者の正解のないタイプのものです。コンセンサス実習は、よく使われる実習であるため、今までにも多くの実習が開発されています。

この実習は、南山大学心理人間学科の人間関係プロセス論(コミュニケーションプロセス)で開発されたものです。この授業は、全14回をコミュニケーションの5つの要素(自己概念・傾聴・明確な表現・感情の取り扱い・自己開示)に従って進めています。まず各項目ごとに丁寧に学んだあと、それらの学びを統合するものとしてコンセンサス実習を行いました。例年は物語の登場人物の好感度を扱ったものを行っていますが、実習を進める中で「なぜこんなありもしないことを考えなければならないのか」とか「自分とかけ離れていて話に乗り切れない」というような声も聞かれました。実習は自分から少し距離があるから安全が守られている部分や、だからこそ本音で話せるということもあるのですが、授業担当者間で「もう少し実感を伴う題材でコンセンサスができないか」という意見があり、新しいコンセンサス実習を考えることになりました。

そうしたコンセンサス実習の題材を探す中で、ディベートを用いて哲学の授業を行うことで話題になった、ハーバード大学のマイケル・サンデル教授の著

書『これからの「正義」の話しよう』を参考に題材を見つけることになりました。そして、本の中のリバタリアニズム（自由至上主義）について考えている箇所から、腎臓移植や自殺幫助のテーマをとりあげ検討しました。その結果、臓器売買や貧困の問題、親子愛などが関わってくる腎臓移植をテーマとして選びました。設定として腎臓移植を依頼された病院の倫理委員会を想定し、移植手術実施を許可するかしないかの二者択一のコンセンサス実習に作り上げました。

## ■実習の概要

実習の課題は次の通りです。貧しい農夫が子どもの将来のために自分の腎臓を売ってお金を得ることを考ました。その手術を依頼されたら、その病院の倫理委員会はどのような決断を下すかを考えるものです。進め方は以下の通りです。

- 1) 個人決定：「自分の体をどうするかを決めるのは、本人の自由である」「人の命はなにものにも代え難い」「病に苦しむ人がいる限り（需要）、自由な市場（供給）があるのは効率的である」など\*、いろいろな立場の関係者が意見を述べているものを参考にして、自分の考えを明確にします。もし自分が病院の倫理委員会のメンバーだとしたら、この手術を認めるか認めないかを考え決定します。その決定に対する考えや思いをメモ欄にメモします。
- 2) グループ決定：グループのメンバーと話し合っ、認めるか認めないか、それはなぜかをコンセンサスによりグループで決定します。
- 3) 報告書作成：グループ毎に、意思決定の結果と話し合いの経緯や決定の理由を書いた報告書を作成します。

\* 1) に用いたものは、日本ラボラトリートレーナーの会で試行した際に、実際に出てきた、代表的な意見を参考にしました。

### コンセンサス (consensus)

集団の意思決定の一つのスタイルで、集団の構成員全員の合意に基づく意思決定のことである。

特定の技術的な問題ではなく、その決定による結果が自明ではないような一般的な問題については、他の型の意思決定よりも解決の正解度は高いとされるが、決定に要する時間が長くなることが多い。正解度が高いということは、集団内の対人リソースによる、つまり、集団内に存在するリソース（資源）の活用が大きく、有効であったかどうかにかかわっているわけである。つまり、集団内の対人相互作用の質の問題が大きくかかわっているというべきであろう。決定後の行動に、集団の成員の全員参加が必要な場合などには有効である。トレーニングでは、相互信頼的、開放的な風土をもったグループを目ざした実習として実施することが多い。実習には正解のあるものと、そうでないものがある。 Creative Human Relations Vol. I P.224より

## ■実習の対象

- ・高校生以上が望ましい
- ・グループワークの体験があるか、または話し合える関係のできている既存のグループであることが望ましい。

---

---

## ねらい

- ・自分や他者の価値観に気づく
- ・コンセンサスによって意思決定をする中でのお互いの関係に気づく
- ・グループでどのような意思決定がなされているかに気づく

---

---

## グループサイズ

1 グループが5～7人で、何グループでも実施可能である。

## 所要時間

2時間～3時間（グループや全体でのわかちあいの時間を調整することで、全体の所要時間を調整することが可能である。）

## 準備物

1. ・手順書 : 資料1  
・課題用紙 : 資料2  
・コンセンサスの留意点 : 資料3  
・ふりかえり用紙 : 資料5  
それぞれ各自1枚ずつ
2. ・グループの課題（グループ決定発表）用紙 : 資料4  
（模造紙半分ほどの大きさに拡大印刷して、グループに1枚ずつを配布してもよい）  
・マジック：グループに1セットずつ

## 会場の設定

グループメンバーが適切な大きさの机を囲むような設定が望ましい。あるいは、グループメンバーが床に円形に座り、グループワークをすることも可能である。

## 手順

1. 導入 (10分)  
手順書（資料1）に従ってねらいの説明、全体の手順の説明をする。
2. 個人決定 (10～15分)

課題用紙（資料2）を各自で読み、個人決定記入欄に記入し、話し合いに備えて決定に対する自分の考えや思い、自分の主張のポイントなどをメモ欄に書くよう求める。

3. 「コンセンサスによる集団決定する際の留意点」の説明をする。（資料3）  
(5分)
4. グループ作り (5分)  
適当な方法で小グループを決定し、グループの場を作り輪になって座る。
5. グループ決定 コンセンサスを求めての話し合い (40～50分)  
話し合いの時間はグループのメンバー数やグループの状況によって調節するとよい。  
グループ決定は「グループの課題（グループ決定発表）用紙」に結果と理由を記入する時間も含む。
6. グループ決定の発表 (5～15分)  
各グループの決定を記入した「グループの課題（グループ決定発表）用紙」をホワイトボードや壁面に貼り、全員で見て回る。その後、「認める」「認めない」の双方の意見が聞けるように発表を求める。ファシリテーターが特徴のあるグループを指名してもよい。  
グループ数が少ない場合や時間に余裕があるときは全グループが順に発表してもよい。
7. ふりかえり用紙記入 (15分)  
ふりかえり用紙（資料5）は、ねらいにあわせて作成するとよい。実習中に気づいたその人の価値観や参加の仕方など、メンバー一人ひとりへのフィードバックをタックシールなどに記入し、相互に交換するのもよい。
8. グループでのわかちあい (20分～40分)  
ふりかえり用紙に書いたことを読み合うような形式でわかちあいをする。できるだけ時間をたっぷり取り、お互いに率直な気づきや思いを伝えあうことが実習成功のカギである。
9. 全体のわかちあい (10分)  
インタビューとまとめ

## ■ファシリテーションのポイント

1. まず最初に、参加者に対してねらいの提示を行ないます。それに先立ち、スタッフチームでねらいを確認することが大切です。どのような対象に、何を学んでもらいたいかによって、ねらいの文章表現や焦点のあて方は違ってきます。

ここでは、大学生を対象として、コミュニケーションに関する学習の一環として行ったものを挙げています。これは一つの例ですので、その時、その場に、合ったねらいをたてて下さい。また、スタッフチームとしても、実習

に対する共通理解を深めるよい機会になります。

2. この実習のように価値観に関する実習の場合、最初の個人決定をしっかりとすることが重要で、ねらい達成のキーポイントになります。今回は、状況やさまざまな意見を読んで提示することにより、学生の集中度が高まったようです。また、自分の意思決定をはっきりさせ、グループの話し合いの中で、決定した理由を述べられるよう、再度指示することも必要でした。
3. グループ討議のスタートに際して、多くのコンセンサス実習ではグループメンバーの個人決定の集計表を用いるので、比較的スムーズにスタートすることができます。しかし、この実習ではそうしたものがありません。グループ決定のため、コンセンサスの留意点を読み上げ、更にグループとして「これが大切。これは譲れない。」ということを明確にする形で結論を出すよう、指示することも助けになるようです。
4. グループの最終課題は、他のグループが見てわかるように、結論を課題（発表）用紙にまとめることです。場合によっては10分前になっても結論が出ないグループも出てきます。そうしたグループには、グループとしての結論は出なくても、どのような話し合いを行い、論点は何であったかなど、グループのコンセンサスに向けての話し合いのプロセスをまとめることを指示します。
5. 各グループから発表をしますが、発表後も会場に掲示しておく、さまざまな考えつまり価値観があることが明確になると思います。可能ならば各グループの発表用紙を印刷して参加者に手渡すことができると、学習を促進すると思います。そうした点からも、統一した発表用紙を用意することは効果的であったと思います。
6. これは長い実習ですので、途中で休憩を取ることが望ましいと思います。展示発表の時に休憩を取り、他のグループ結果を自由に見たり、意見を交わすことを促すとよいでしょう。
7. コンセンサス実習では、十分に話し合いの時間を取りたいので、結論にいたらないグループが多い場合、話し合いの時間延長という判断を行うことも起こります。その際も、ふりかえりの時間を充分確保しておくことが重要になります。
8. ふりかえり用紙は、ねらいをふりかえることのできる問いであること、対象者の年齢や経験の度合い、記入時間などによって、適切な項目を選んでください。このモデルでは、シールを貼ることになっていますが、このように直接メンバーから自分についての情報をもらうことは、インパクトもあり、学習の動機づけになるようです。
9. 今回の学生の反応の中に、話し合いの中で違った決定をした人の考えを聞きたかった、というものがありました。そのグループは、全員が同じ決定だったからです。そのような状況を回避しようとするならば、個人決定後に選択

結果に基づいたグルーピングをすることが考えられます。

■ 個人決定とグループの話し合いの結果 (抜粋)

実際の授業の中で、学生が発表用紙に書いたグループ決定をいくつか例に挙げます。

グループでコンセンサスを始める前に決めた、個人での決定も書き添えました。

| Aグループ   | Bグループ   |                 |      |   |    |   |       |    |                 |   |     |                |  |
|---|---|-----------------|------|---|----|---|-------|----|-----------------|---|-----|----------------|--|
| <p><b>*結論</b> 認める</p> <p><b>*理由</b><br/>本人の意志</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農夫は自分から望んで息子のために臓器提供すると決断した家族の意志</li> <li>・ 息子は臓器提供には反対していない</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>前例を作ることによって今後、多くの人の命を救うことができる</p> <p>初めの個人決定：認める 1    認めない 3</p>   | <p><b>*結論</b> 認めない</p> <p><b>*理由</b><br/>認める意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人の自由と自己犠牲</li> <li>・ 闇ルートの衰退に期待</li> <li>・ 患者が待ってる</li> </ul> <p>認めない意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 息子は本当に幸せなのか</li> <li>・ 貧しい人の命が軽くなる</li> <li>・ 移植用の人が産み出される恐れあり</li> <li>・ 闇ルートの発展に恐れあり</li> <li>・ 医者 of 気持ち</li> </ul> <p>初めの個人決定：認める 1    認めない 4</p> |                 |      |   |    |   |       |    |                 |   |     |                |  |
| Cグループ   | Dグループ   |                 |      |   |    |   |       |    |                 |   |     |                |  |
| <p><b>*結論</b> 認めない</p> <p><b>*理由</b><br/>農夫は「今の自分たちの苦しい生活を変えること」を望んでいる。しかし、選択肢は腎臓を売る以外にも考えられる。</p> <table border="1" data-bbox="363 1420 761 1709"> <tr> <td>売る</td> <td></td> <td>売らない</td> </tr> <tr> <td>死</td> <td>農夫</td> <td>生</td> </tr> <tr> <td>大学親無し</td> <td>息子</td> <td>大学へ行ける<br/>他の可能性</td> </tr> <tr> <td>生</td> <td>待つ人</td> <td>生きられる<br/>他の可能性</td> </tr> </table> <p>初めの個人決定：認める 1    認めない 3</p> | 売る  |                 | 売らない | 死 | 農夫 | 生 | 大学親無し | 息子 | 大学へ行ける<br>他の可能性 | 生 | 待つ人 | 生きられる<br>他の可能性 | <p><b>*結論</b> 認める</p> <p><b>*理由</b><br/>どちらにしても幸せになれない</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>父の気持ち：強い意志<br/>幸せを信じている</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p>第三者が止められるか<br/>BUT：「前例」となることも視野に入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 条件を厳しく規定</li> </ul> <p>息子は父の意志を継ぐ</p> <p>初めの個人決定：認める 1    認めない 4</p> |
| 売る  |   | 売らない            |      |   |    |   |       |    |                 |   |     |                |  |
| 死   | 農夫  | 生               |      |   |    |   |       |    |                 |   |     |                |  |
| 大学親無し   | 息子  | 大学へ行ける<br>他の可能性 |      |   |    |   |       |    |                 |   |     |                |  |
| 生   | 待つ人   | 生きられる<br>他の可能性  |      |   |    |   |       |    |                 |   |     |                |  |

## ■価値観のコンセンサス実習のバリエーション

実習「HP病院倫理委員会」は、もし自分が病院の倫理委員会のメンバーだとしたらという設定です。学生を対象とした場合、病院の倫理委員会のメンバーという架空の設定を入れることによって臨場感を持てることと、安心感を確保する意図がありました。しかし、社会人の場合は、実習の枠組みを個人がより自由に意見を言えるものにするのも可能だと思います。以下のバリエーションは「自由至上主義と命の関係をどう考えるか」という問題の提示で行うものです。

### \*実習「私の体は私のものか」

実習の課題は、ある人が自分の2人の子どもたちの将来のために自分の腎臓を次々と2つとも売る決断をするケースに対して、この決断に対し同意するか同意しないかを考えるものです。考え方の幅を広げる参考意見は、「HP病院倫理委員会」では人物設定をしていますが、「私の体は私のものか」は人物設定をせず、考え方を提示する形にしました。腎臓を売るという行為に同意するかしないかを個人決定し、その後、グループ話し合っ同意するかしないかをコンセンサスによりグループ決定します。(資料6、7を参照)

## コンセンサス実習「HP 病院倫理委員会」

- ねらい：
- ・自分のものの見方・考え方に気づく。
  - ・話し合いの中での自分や他者の参加の仕方やコミュニケーションの特徴に気づく。
  - ・コンセンサス（全員の合意）による集団決定を体験する。

進め方：

1. 導入（ねらい、進め方の説明）
2. 実習の実施
  - ・個人決定
  - ・コンセンサスの留意点の説明
  - ・グループ決定
  - ・結果の掲示
3. 休憩（掲示の閲覧）
4. 結果の発表とコメント
5. ふりかえり
  - ・ふりかえり用紙の記入
  - ・わかちあい
6. まとめ

出典：グラバア俊子・杉山郁子他（2010） 実習「HP病院倫理委員会」  
南山大学人間関係研究センター紀要『人間関係研究』第10号（2011）



## HP 病院倫理委員会

あるインドの村の貧しい農夫が、今の自分たちの苦しい生活を変えるためにも、何とかして二人の子どもを大学に行かせたいと考えていた。資金を作るために、その農夫は片方の腎臓を移植を必要としている金持ちのアメリカ人に売った。数年後、二番目の子どもが大学入学年齢に近づくくと、また別の臓器仲介人が村にやってきて、農夫の二つ目の腎臓に高額な値段をつけた。農夫は二番目の子どもが将来を嘱望される優秀な学生であるため、その話を承諾することにした。そして、そのための移植手術を HP 病院に依頼してきた。すぐに倫理委員会が開かれ、腎臓がなくなれば農夫は死ぬことになるが、二つ目の腎臓を売る自由を農夫に認めるべきだろうかという点で、様々な意見が出され討議が繰り返されてきた。今回の結論は、前例として HP 病院の腎臓移植の指針となるので、慎重な論議が必要である。そして、今日の委員会で、最終結論を出さねばならない。

これまでの倫理委員会で出た意見や関係者の方たちの声は、以下のようなものでした。

|             |  |
|-------------|--|
| 倫理委員 A      | 自分の体と命を本当の意味で所有しているなら、目的やリスクを考えただけで腎臓を売るかどうかを決めるのは、本人の自由でなければならないと思う。                            |
| 村 長         | 人は神によって生かされている存在だ。自分の命を粗末にしてはならない。人の命は何ものにも代え難いものなのだ。  |
| 農夫の息子       | こんな重大な決断をしてくれる父に深い愛を感じる。その期待に十分にこたえていきたいと思うが、そのことが父の命と引き換えであると思うととてもつらい。                         |
| 腎臓移植を待っている人 | 長年、好きなものを食べたり、好きな所へ行ったりもできず、命つきる日に脅かされて過ごしている。高額なお金を払ってでも腎臓を手に入れ、その後の人生は、人のために捧げて生きていきたい。        |
| 臓器仲介人       | 毎年数千人の人が腎臓移植を待っている。自由な市場がふえれば、供給が増え、正当な手段で腎臓を手に入れることが可能になるのではないか。人と人の命をつなぐことが目的だ。助けられる命を助けたいだけだ。 |
| 倫理委員 B      | 腎臓をお金で手に入れることができるようになると、お金がある人が有利になり、貧富の差で命の価値に差ができる可能性があることも考えなければならないであろう。                     |

あなたたちは、HP 病院倫理委員会のメンバーである。それぞれの意見を聞いて、まずあなた自身はどのように考えるか結論を出し、委員会において明確な理由を説明できるようにしてください。

認める ・ 認めない

メモ（あなたの考えたことや思いを自由に書いて下さい）

出典：グラバア俊子・杉山郁子他（2010）実習「HP病院倫理委員会」

南山大学人間関係研究センター紀要『人間関係研究』第10号（2011）

## コンセンサスによる集団決定をする際の留意点

今の時点での決定は、あなたの個人決定です。これはあなた自身のものであり、納得できない限り変えないでください。

これから、コンセンサス（全員の合意）による集団決定をしますが、一つ一つについてグループの各メンバーが合意して、はじめてグループの決定となるわけです。コンセンサスはもちろん容易ではありません。したがって、すべての決定が、各人の完全な合意を得ることはできないかもしれませんが、少なくとも、ある程度の合意を示し得る決定を作り上げるように努力してください。

以下に、コンセンサスを得るための若干の留意点を記します。

1. 充分、納得できるまで話し合ってください。自分の意見を変える場合は、自分にも他のメンバーにもその理由が明らかである必要があります。
2. 自分の判断に固執し、他に勝つための論争（あげつらい）は避けてください。
3. 決定するのに、多数決とか、平均値を出してみるとか、または取り引きをするといったような「葛藤をなくす方法」は避けてください。また、結論を急ぐあまり、あるいは葛藤を避けるために安易な妥協はしないでください。
4. 少数意見は、集団決定の妨げとみなすより、考え方の幅を広げてくれるものとして尊重することは大切です。
5. 論理的に考えることは大切ですが、それぞれのメンバーの感情やグループの動きにも、充分配慮してください。

出典：グラバア俊子・杉山郁子他（2010） 実習「HP病院倫理委員会」  
南山大学人間関係研究センター紀要『人間関係研究』第10号（2011）

## \* グループの課題

- ◆ それぞれの意見を率直に述べ、十分に話しあって HP 病院の倫理委員会の結論を出してください。

< 腎臓移植についての HP 病院倫理委員会報告書 >

グループ名 \_\_\_\_\_

\* 結論

認める

・

認めない

\* 理由

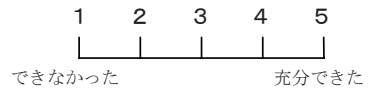
出典：グラバア俊子・杉山郁子他（2010） 実習「HP病院倫理委員会」  
南山大学人間関係研究センター紀要『人間関係研究』第10号（2011）

## ふりかえり

1 この実習の中であなたは

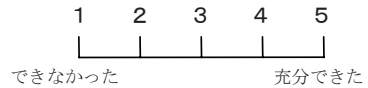
- a) どの程度、自分の気持ちや意見を述べる事が  
できましたか。

(理由)



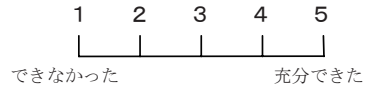
- b) どの程度、他者の気持ちや意見をきくことが  
できましたか。

(理由)



- c) どの程度、合意(コンセンサス)ができましたか。

(理由)



2 この実習の中で、あなたの考え方の基準(価値観)になったことは・・・。

3 あなたがこの実習の中で取り組んだ課題はどのようなものでしたか(シールを貼る)。

また、どのように取り組むことができましたか。

4 他のメンバーの価値観、話し合いの中での言動で気づいたことをシールに記入してください。

\* 記入していただいたものを裏面に貼る。

5 今後、他の人と意見の調整をしなければならない時、あなたの課題としたいことは何ですか？

出典：グラバア俊子・杉山郁子他（2010）実習「HP病院倫理委員会」

南山大学人間関係研究センター紀要『人間関係研究』第10号（2011）

## 私の体は私のものか

あるインドの村の貧しい農夫が、今の自分たちの苦しい生活を変えるためにも、何とかして二人の子どもを大学に行かせたいと考えていた。資金を作るために、その農夫は片方の腎臓を移植を必要としている金持ちのアメリカ人に売った。数年後、二番目の子どもが大学入学年齢に近づくと、別の買い手が村にやってきて農夫の二つ目の腎臓に高額な値段をつけた。二番目の子どもは将来を嘱望される優秀な学生であり、農夫はその話を承諾することにした。

- ・自分の体と命を本当の意味で自分が所有しているなら、目的やリスクを考えたらうで腎臓を売るかどうかを決めるのは、本人の自由だと言えるのか？
- ・人の命は何ものにも代え難いものではないのか？
- ・移植される子どもは、父親の死を代償に得た大学進学であるということを受け入れねばならない。その後の人生にどのような影響を及ぼすであろうか？
- ・毎年数千人の人が腎臓移植を待っている。自由な市場がふえれば、供給が増え、正当な手段で腎臓を手に入れることが可能になるのではないか？
- ・腎臓をお金で手に入れることができるようになると、お金がある人が有利になり、貧富の差で命の価値に差ができる可能性があるのではないか？
- ・生きたいと思う人がいる限り、そのことにできるかぎり手を貸すことは必要ではないか？

参考資料：「これからの「正義」の話をしよう～いまを生き延びるための哲学」 マイケル・サンデル著

\*あなた自身はこの農夫の決定をどう思いますか。

同意できる ・ 同意できない

理由

出典：グラバア俊子・杉山郁子他（2010）実習「HP病院倫理委員会」  
 南山大学人間関係研究センター紀要『人間関係研究』第10号（2011）

## グループの課題

メンバーそれぞれが自分の考えを率直に述べ、互いの意見を十分に聞きあったうえで、グループとして農夫の決定に同意するかどうかを決めてください。  
また、それについての理由を明確にしてください。

グループ名 \_\_\_\_\_

\* 結論            同意できる            ・            同意できない

---

\* 理由

出典：グラバア俊子・杉山郁子他（2010） 実習「HP病院倫理委員会」  
南山大学人間関係研究センター紀要『人間関係研究』第10号（2011）

# 実習使用規定

ラボラトリー方式の体験学習に関するツールを公開することで、ラボラトリー方式の体験学習が広く普及することを願って、第7号(2008)より「実習」を掲載しております。ここに掲載されている実習は、当センター研究員とその仲間によって開発され、これまでの教育実践で用いられてきたものです。使用の際には以下の留意事項をお守りください。

なお、ラボラトリー方式の体験学習を実施する際には、まずはご自身がラボラトリー方式の体験学習を体験されることをお勧めします。当センターではラボラトリー方式の体験学習を用いた公開講座を開催しております（詳しくは当センターの Web ページ <http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/> をご参照ください）。体験学習のファシリテーションを学んだ上でご使用ください。

## 実習を使用する際の留意事項

1. 著作権は著者に属します。実習を販売することや、営利目的の発行物などに転載することは禁止します。なお、教育目的での無料の発行物などに転載を希望される場合は、当センター事務局にお問い合わせください。
2. ラボラトリー方式の体験学習として教育・研修などに使用される場合には、各実習の課題シート（実習の指示書）に出典を明記してください。使用の際に当センターや著者に許可を得る必要はありません。また、使用料も発生しません。

### 【出典の記入例】

出典：大塚弥生（2008）「グループ エントランス」  
南山大学人間関係研究センター 人間関係研究, 第 7 号より

3. 課題シート（実習の指示書）をそのまま使用するのではなく、プログラムの実施状況に合わせて適宜修正・変更した上で使用する場合は、「参考」として出典を明記してください。
4. ラボラトリー方式の体験学習で大切にされている教育観（学習者中心の教育、非操作の教育、学習者が自らの人間的成長に取り組む教育）に反する使用は禁止します。たとえば、営利目的で学習者を操作する自己啓発セミナーなどでの使用は一切禁じます。